

別紙

令和6年11月18日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長

森田 洋一 様

議会報告会 3班（市民経済委員会）

班長 藤井 俊行

渡辺 仁二

植田 和子

うた 桜子

戸辺 滋

石原 修治

青野 直

第24回議会報告会（第2部）の概要は下記のとおりでしたので、報告します。

記

1 概要

（東深井在住：男性）

・ウイングホール柏斎場について、野田市や松戸市など他の自治体を利用した場合、例えば3年前に野田市斎場を利用したが8万円ぐらい高かったことと、ウイングホールの現状は、日程がなかなか組めず2週間ぐらい待ちとなる。ウイングホール柏斎場に助成金を出すのは良いが、根本的な改善を考えてほしい。

（議員）

・この問題については全会派の意見が一緒です。柏の地域住民で

つくられた斎場対策委員会と流山市との協議の中で、まずは待ち日数を減らす取り組みとして、以前は火葬する日ではなかった友引も火葬できるように少しずつですが前進しています。（利用者に対する）補助金についても市長が議会の中で「（構成市と）負担軽減を協議する」という答弁がありました。その後の進捗は議会に示されていないので市長懇談会の中でも聞いてみます。

（東深井在住：男性）

・小規模宅地開発について、東深井地区で10世帯・15世帯などの小規模開発による道路渋滞や、木を伐採しても公園などができるていない。大規模開発の場合は公園が設置される。小規模宅地開発の場合、30坪ぐらいの住宅が多くできているがそれで良いのか。緑がなくなつて公園もないために、一時避難場所の確保など防災にも関わってくる。

（議員）

・流山市では小規模開発については一区画135m<sup>2</sup>以上と決められているが、既存宅地については分割して小規模な宅地となっているが基準はない。3,000m<sup>2</sup>を超えると提供公園をつくるなければならないが、それ以下だと必要がなくなる。開発の場合、まちづくり委員会や事前協議などがあるので確認を取ります。

（江戸川台東：男性）

・防災関係について、流山市では震災時による避難者数の想定が約25,000人から10,000人に減っており、防災対策の予算では2,500万円ぐらいしか増えていない。流山市としての防災に対しての危機意識が低いのではないか。8月の台風7号において、テレビでは野田市・避難所開設、松戸市でも避難所開設のテロップが流れていたが、流山市の情報は出なかつたので、夜中ではあつたが市に連絡をすると、「流山市は開設しておりません。」との回答だけだった。

（議員）

・台風7号の時は避難所開設はなかつたが、決して流山市の防災に対する危機意識が低いということはない。

（議員）

・防災に関しての流山市・市長の意識は低いと思う。予算も少な

いし市民の方の意見と同じ意見です。

(議員)

・台風7号の時に避難所を開設しなかったことについて、市民からの意見は聞いています。「こういう理由で開設しなかった」と丁寧なアナウンスをすべきことは申し入れました。

(居住地不明：女性)

・教員不足について、流山市は現在32名程の未配置であり、早急に対策をすべきではないか。また、おおたかの森小学校など40人教室となっている。

(議員) 教員の配置については、県が管轄しており、流山市としてはサポート教員などを配置し対応している。

(市民)

・東深井運河駅周辺の道路の危険個所について、陳情書を提出し議会では通ったが、その後どうなっているのか知りたい。おおたかの森ばかりにお金を使っている。

- ・不登校専門の先生を配置すべきではないか。
- ・DMOについては撤退すべきではないか。

※ここで意見交換の前半終了となる。

(加在住：男性)

・流山市として温暖化対策について、具体的にどのように取り組んでいるのか。また、不登校の数が増えている中、議会として市長にどのような提案をしているのか。更に、白みりんミュージアムの見通しについて、年間の来客数や収支の見通し、何年で償却できるのか、ただお金をかけるのではなく、ビジョンやイメージはできているのかどうか。最後にこの議会報告会の資料について、紙をたくさん使用しているが、その点についてはどのように考えているのか。

(議員)

・不登校については、全議員が共有認識を持っている。温暖化対策については、個人的に太陽光パネルと蓄電池を使用することを提案している。また、ゴーヤカーテンの普及にも積極的に取り組

んでいる。

(議員)

・白みりんミュージアムについては、年間2万人を見込んでおり、投資金額について市長は回収することは考えていないようです。

(議員)

・議会では紙ベースの資料が多かったことから、現在はタブレットを活用しており紙の使用量は減っている。(ペーパレス化)

(居住地不明：男性)

・後期高齢者問題の今後について、どのように流山市は考えているのか。(建物の問題や運営の問題について)

(議員)

・老人福祉に関して、流山市は予算が少ないと思う。子育て世帯ばかりにではなく、老人福祉に対しての予算も増やすよう指摘を続ける。

(議員)

・先日、千葉県後期高齢者医療広域連合の会議に出席してきたが、千葉県は後期高齢者数があと1年で100万人となる見込みであり、16%ぐらいの比率となる。流山市は健康維持について、例えば歯（口腔）から病気が出ることで、歯科検診を推進しているが16%ぐらいしか検診に行っていない。更に啓蒙していく必要がある。

(不明：男性)

・先日、北部公民館で開催されたタウンミーティングに参加したが、江戸川台附属幼稚園の存続についての2回の陳情書について、議会では採択されたが、市長は廃園をあきらめていないようだった。二元代表制による議会の結果を受け止めるべきではないのか。

・流山市も人口が21万人を超えた中、保健所をつくるべきではないか。また、保健センターが老朽化・手狭となっているため、移転された南流山中学校内にもっていってはどうか。使用していない校舎など余裕がある。

(議員)

・保健所は県の管轄、うちの党には県議もいるので県議団とも一緒に保健所設置に向けての働きかけはしている。あとは市長のや

る気次第、知事にもっと要望するべきだ。

幼稚園廃園問題は、市長はまだあきらめていない、市民が反対しているのに、なぜここまで固執するのか。陳情は全会一致ではない、議員の中でも賛否は分かれている。

(市民)

- ・決算の報告ということで参加したが数字の報告が足りない。決算を次の予算につなげようと言っているが、単年度の収支しか載せていない。

(市民)

- ・防災に関して、重要なのは自衛隊。流山市は自衛隊の活用・連携が弱い。

(議員)

- ・自衛隊派遣は、県知事の要請で動くので、知事の判断が中心となる。

「要望」

- ・指定ごみ袋に変更したことによる効果はどのようなものなのか。市民にもわかるように広報ながれやまなどで、状況を報告してほしい。

## 2 所感

(藤井俊行)

今回、初めての試みとしてワールドカフェ方式を採用したことは、委員会の皆様の意気込みは評価いたします。最初の取り組みでしたので指摘すべき項目を上げさせていただきます。

◎まず、第一部の開会前に、諸注意事項の説明があればよかったです。携帯電話のマナーモードに始まり、記録を取るので写真撮影と録音をする旨の説明が必要であった。

◎第二部で、第一部の疑問があればテーブルについている班に質問するという説明であったが、班での回答には無理があると感じた。

◎一番問題だったのが、4グループが同一会場同一開催であり、マイクの使用が困難なので、発言内容が聞き取れなかった。

◎参加した市民から、参加したい常任委員会ではなかったとクレームが入った。参加する市民の要望を聞くべきであった。それによって人数バランスが違ったとしても、参加したい委員会で発言出来たほうが、良かったと思う。

◎常連で、議会に意見を言いたいという方が多く、声なき声を聞く本来の議会報告会となっていない。商工会議所・保育所など出向いていく報告会の検討も必要ではないかと感じた。

（渡辺仁二）

今回開催しました議会報告会では各委員会で円団を組み意見を集約する方式がとられました。膝を交える形であるため、市民からの声を聞ける良い機会と感じました。一方、同じ室内の中で4つの委員会ごとに分かれたため、会場全体ががやがやと話し声が響いたために声が聞こえにくい状況が最後まで続きました。企画としては良いと思いますが、同じ部屋で行うのではなく、委員会ごとに分かれた部屋で行う方がより意見聴取ができると感じました。また、会場の駐車場の容量が少なく車を停められなかつたという声もありました。会場選定をしっかりと行う必要があると思います。同時開催であれば中央公民館がベストだと思います。

（植田和子）

今回は、15年ぶりに28人全議員がそろった議会報告会の開催となりましたが、15年前と違う点は、1つの会場内で4つの班に分けた、という点です。マイクなしで4つの班がそれぞれ意見交換を始めましたが、想像以上に、市民も議員も聞き取りに苦労しました、意見交換の場にマイクは必要だとあらためて思いました。また、30分で議員が別のテーブルに移動して、再度、一から自己紹介をして、というくだりが二度手間で、移動する時間も含めてもったいないと思いました。後日、市民の方から「あれでは落ち着いてじっくり話もできないし聞けない」「全議員がそろっているわりには参加者が少ない」「補聴器を使っていたが雑音の中で疲れた」「以前の議会報告会のやり方の方がいい」と言われてしまい、今回は試行という形で開催したことをお伝えしまし

たが、正直、不評でした。駐車場がいっぱい帰られた市民の方もいらっしゃいました。次回開催する会場は、駐車場の多い会場にした方がいいと思います。また、せっかく全議員参加の議会報告会でしたから、4つに分けなくても全議員で意見を聞き、全議員で対応する議会報告会でもいいのでは、と思いました。(タウンミーティングは執行部がずらっと並んで対応しているので。)

(うた桜子)

今まで4つの違う公民館でそれぞれの委員会（総務委員会、教育福祉委員会、市民経済委員会、都市建設委員会）が報告をして市民と意見交換をする形式だったが、今回は、流山市議会報告会の新しい試みとして、ワールドカフェ方式を取り入れた。大きいホールに4つの委員会が大集結し、まずは司会が決算とは何かを市民にわかりやすく説明した後、今後の予算提案に向けて大切な市民の意見を聞けるよう4つの委員会のメンバーが簡単に説明した後、市民の質問を直接聞いて答えるという対話形式を取った。参加者の中には、柏市議会議員が2名おり、議員と市民が気軽に話せる機会を設けている報告会に柏市には見られない画期的な集会であると大変感心されていた。

今回のワールドカフェ方式でのメリット、デメリットを出してみる。

メリット：

- ・4つの委員会が同じホールにいるので、市民が市議会議員全員を一通り知ることができる。
- ・市民が気になる市議会議員と対話することができる。

デメリット：

- ・他の委員会が同じホールにいるので、マイクを使うことができず、他の委員会も声を出しているので、雑音が入り、せっかくの市民の声が聴こえづらかった。（多分市民も聴こえづらかった）
- ・市民が好きな委員会にローテーションするのではなく、議員がローテーションするので、特定の委員会に物申しに来た市民が自分の興味がある委員会に割り当てられず、意味のない時間を過ごした方が一定数いた。

## 別紙

提案：今までのよう違う公民館だと他の委員会が回れない同じ公民館で開催するのは良かった。しかし、聞きづらいことを考えると、来年の改善のための提案として、可能であれば、最初だけ大きなホールで説明をし、その後はそれぞれ4つ会議室に移動して説明会を行った方が良いと思った。また、興味のないところに強制的に配属されるのは、せっかく来場した市民が満足できずに帰ることになってしまうため、議員がローテーションするのではなく、市民が好きな委員会にローテーションする方が良いと思った。

以上、今年の議会報告会を踏まえ、来年はより満足度の高い報告会にしていきたいと思った。

(戸辺滋)

第24回議会報告会において、南流山センターが会場に選定されましたが、自動車駐車場が限られていたため、参加者にご不便をお掛けしたことが懸念されます。今後の会場選定においては、駐車場が十分に確保されつつ、鉄道やバス等でも来訪しやすい会場の選定を心掛ける必要があるものと思いました。

また、報告会の第一部の内容について、第二部の意見交換の際に参加者より、「決算に関する報告と伺っていたので、もっと数字に関する報告がなされるものと思っていた」旨のご意見がありました。今回の報告は、予算だけでなく決算も重要なことを中心に報告がなされ、その点については当初の目的を達成したものと捉えていますが、今後の報告の在り方について、このようなご意見があったことも留意して頂ければ幸いです。

また、第二部の意見交換の際に、4つのテーブルそれぞれで意見交換が始まり、参加者の声が聞き取りにくかったこと、参加者の中には聞き取りに困難を抱える方もおり、ご不便をお掛けしてしまったことは今後しっかりと考慮し、会場のレイアウトには更なる配慮が必要であると思いました。

(石原修治)

今回の議会報告会は初めての取り組みとして、全議員が結集する

## 別紙

ものであった。1部は決算審査における議会の指摘要望合意事項と各会派が提出した指摘要望が示されたことにより、各会派の政策に繋がる重点事項などが見える型となったことは良いことだと受け止めている。2部では、各常任委員会による市民との意見交換会については、私たち議員は、市民の皆さんからのご意見を真摯に受け止め、現状をさらに良くするための方向性を協議・検討しながら、市民との共有が重要であることを再認識しました。

（青野直）

今回は第1部議会活動報告「決算を次の予算につなげよう」。第2部常任委員会ごとによる参加者との意見交換会を実施されました。

特に、常任委員会での交換会では、県政に関する教職員不足の問題や東葛中部事務組合の問題、台風7号時点での流山市の対応等についての参加者からの貴重な意見をいただきました。市民の生命にかかわる大事な意見を直接聞くことが出来ましたので、今後の参考として、さらに自分自身が直接話し合いをする機会を増やしていくかなければならないと感じました。あらゆる機会を通して努力を重ねていきます。